

令和3年度 学校評価自己評価表

1 学校教育目標 自ら学び 自ら考え 協働できる 心豊かな子供の育成

2 経営理念

■ミッション 「地域に愛され、信頼される」学校となる

■ビジョン 「夢（目標）に向かってチャレンジし成果を見せる学校」になる

3 経営目標 (A・・・95%以上 B・・・70%以上～95%未満 C・・・70%未満)

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための手立て	評価指標			評価	短期経営目標の達成状況と改善方策	
				7月達成値	12月達成値	3月達成値			
確かな学力	「基礎・基本」の確実な習得を担保しながら、協働的な深い学びを実現する。	「主体性を発揮する児童の育成」を意識した授業づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 系統的に育成を目指す資質・能力を設定する。 PBL（プロジェクト型学習）の考え方を生かした単元開発を行う。 振り返りの充実 個に応じた支援を行う。 ICT 機器の研修を、年間3回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種学力調査における通過率が全国平均以上の児童の割合を80%以上にする。 	B 88.5%	/	B 78.6%	B	<ul style="list-style-type: none"> 学力テストで課題があった問題や、その学年で弱いと感じている観点の問題に対応する力をつけるため、週1回以上、課題克服のための宿題を出し、担任は丁寧に解説をするように努める。 標準学力テストの思考・判断・表現の結果から、得点が高い児童と低い児童の二極化が進んでおり、個に応じた指導に力を入れていく必要がある。 ※全国学力・学習状況調査結果 【国語】本校72% (県66%, 全国64.7%) 【算数】本校78% (県63.6%, 全国70.2%) ※全国学力・学習状況調査における通過率が全国平均以上の児童の割合【国語】12人中9人75%【算数】12人中8人66.6% ※標準学力調査における通過率が全国平均以上の児童の割合【国語】62人中37人59.7%【算数】62人中41人66.1%
				<ul style="list-style-type: none"> 主体性における項目の肯定的評価を80%以上にする。(児童アンケート) 	B 90.3%		A 113.3%		
豊かな心	思いやりをもち、前向きに判断し行動する児童の育成を図る。	「自分たちの生活をよりよくするためにどうすれば良いかを考え実践できる」児童の育成に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り掃除リーダー会を、学校をよりきれいにするためにどうすればよいかを常に考える主体的な会にする。 毎日続けてそうじをがんばっている人をそうじ名人に認定する。 児童会を中心に、友達の良さを見つけたり、表現したりする活動を行う。 学校や学級での活動で、行動だけでなくその行動の何が良かったのか、価値付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「太陽の子チェックシート」で、10項目中7項目以上肯定的な回答をしている児童の割合を、全校の80%以上にする。 基礎的な生活習慣 健康体力の向上 自立自立 ・責任感 創意工夫 ・思いやり協力 生命尊重自然愛護 勤労奉仕 ・公正公平 公共心公徳心 	A 121.2%	A 122.5%	A 119.4%	A	<ul style="list-style-type: none"> 「太陽の子チェックシート」で、10項目中7項目以上肯定的な回答をしている児童の割合は、現時点で95%で、目標数値を上回っていた。 「太陽の子チェックシート」の勤労奉仕（そうじ）の項目では、7月末・12月末に引き続き、75%の児童がよくなったと回答しており、そうじを中心とした取組の成果が出ている。 12月末に、「太陽の子チェックシート」の生命尊重の項目で肯定的な回答をした児童は73%であったが、3月末では86%に向上している。 12月と比較して、肯定的な評価の割合が下がったのは、「思いやり協力」95%と「公共心公徳心」97%であった。また、「基礎的な生活習慣（あいさつ・言葉遣い）」の項目の肯定的な評価は92%で、他の項目と比べると低く、来年度も継続した取り組みが必要である。

健やかな体	心身の健康・体力向上に自らチャレンジする児童の育成を図る。	体力づくりの推進を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の校内実施新体力テストで課題のあった握力と走力（令和元年度の県平均かつ全国平均値より低い項目）に重点を置き、体育の時間や体力づくり朝会において取り組む。 新体力テストの結果から、自分たちの体力に着目させ、学校全体の体力向上をめざした解決策を児童が進んで実践するよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テスト実施後の結果から、R元年度全国平均より低い項目を2学期に測定し、前年度を上回る項目を90%以上にする。 	B 72.2 %	C 40.1 %	A 99.5 %	A	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの2回目の測定において、R元年度全国平均を上回った項目は96項目中86項目（89.6%）であり、達成率は99.5%だった。課題に応じた風の子サーキットは効果があった。 今年度、タブレット学習をする機会が増えてきたことや、コロナ禍で外遊びの機会が減ったことなどから、姿勢の維持の難しさが見られてきた。そこで、肩甲骨を柔らかくする運動を取り入れた「背筋ピン 風の子ストレッチ」を保健体育委員が考案し、大休憩の前に実施した。 次年度に向けて、体育科校内研修を実施した。運動習慣を身につけることは、豊かな人生を送るための基盤づくりと考え、今後、遊びを中心とする身体活動を十分に取り入れていきたい。
-------	-------------------------------	--------------	--	---	----------------	----------------	----------------	---	--